

TDA20周年記念に寄せて

TDAの使命と今後の活動

日本テキスタイルデザイン協会
2代目理事長 わたなべひろこ

変動の時代と云われた20世紀末、1995年に立ち上げたTDAも創立から20年が過ぎました。新しい21世紀も既に15年が経ちました。20年前、TDA立ち上げに参加した一人として、この20年を振り返り、感慨無量のものがあります。テキスタイルデザイナーの地位向上やデザイン権の保護等が原点にありましたが、その先には日本の繊維産業の復権や繊維文化の高揚と云う究極の目的がありました。TDAはこのビジョンに向かって真摯な努力を重ねてきたと信じています。

創立以来、業界のあり様は益々厳しく、現在も世界の政治的動向、経済的市場共に楽観が許されません。この現況の中でTDAはどの様に対処し行動していけば良いのでしょうか。これまでの20年は明日への基礎体力づくりだったと云えます。これからの20年は新しいステージに立ってチャレンジを進めていかねばなりません。現在も業界とのコラボレーションや実験活動など着々と進めています。これ等を更に効果あらしめ、社会への貢献度を高める為の20周年を新たなステップ台として“TDAイノベーションプロジェクト構想”を打ち出していますが私も一理事として参加し、未来に向かってチャレンジしていきたいと願っています。

会員相互の交流、向上は勿論のこと、グローバルな視野で明日を拓く具体的なプロジェクトにまず日本の教育機関、大学等との積極的な提携による工場、産地、企業などへの実習を単位化するインターン制度の確立、人材育成、更にテキスタイル産業に於けるプロモーターやプロデューサーの育成、海外市場への挑戦を進めたいと思います。次にテキスタイル市場基盤やものづくりへの関心を高める意義のある資格制度の設立などが挙げられます。どれも簡単に出来る事ではありません。しかし必要な事項ではないかと思えます。

経済力の無いところに文化は育ちませんが、又文化の無いところには経済は長続きしません。両者相まってこそ繁栄は続きます。TDAの活動はテキスタイルの仕事に関わる私達会員一人一人の生き様の線上にも連なるものだと思います。日本の繊維産業の復権と繁栄、繊維文化の高揚と云う使命に向かってTDAは更なる活動を続けていきたいと思えます。

TDA創立20周年記念出版にあたって

日本テキスタイルデザイン協会
3代目理事長 寺井 洋介

この度日本テキスタイルデザイン協会が創立20周年を迎えることになり感慨深いものがあります。これまでの活動で協会の基盤が固められてきたことは大変喜ばしいことです。ただ今日協会を取り巻く情勢は、決して楽観できるものではありません。難しくなった情勢の中で如何に協会を継続発展させていくか、悩ましい課題が山積しているのも事実です。

振り返れば、この20年の間に基盤となる繊維産業そのものが世界の経済競争の中で中国を中心にアジア諸国への移転が進み日本の産業構造が大きく変化していったことは、デザインに関わる私たちの仕事の在り方をも大きく変えていきました。

協会を設立したのは20世紀が終わろうとする時期で新たな世紀の到来に不安と期待を抱きつつも発展を目指して様々な活動を展開してきましたが、社会、経済、文化の変化は思いの外激しいものでした。小売り市場ではファストファッションが拡大し、かつてファッションをリードしてきたブレタポルテは牽引力を失い、また大手アパレルが展開してきた多くのナショナルブランドも整理を余儀なくされることになっています。

これはインテリア分野に於いても同様の状況が進んでいる事として受け入れざるを得ません。消費者の変化も大きく、ファストファッションの商品と高級老舗ブランドの商品を等価に捉えたデジタル・ミックスが当たり前になり、グレードを合わせたトータルなコーディネートは過去のもののように見える状況です。

これらの事は生活全般にわたりあらゆる所、場面で見られるようになり価値観が20世紀と異なってきたように思えます。

更にはPCやソフトなどITの進歩は目覚ましく、誰にでもグラフィックデザインが出来るようになったことはデザインの大衆化を進め、プロとしての役割、存在意義を問うことにつながっています。

この度まとめられた20年の活動を熟考し、21世紀のこれからへ向けて何を捨て、また壊し、何を残し、また新たに築くべきかを模索するツールとして活用して頂きたいと祈念して、発刊にあたっての挨拶とさせていただきます。